

図書館へ出かけよう!

たくさんの本があなたを待っている!

図書館では、子どもの読書活動を推進するため様々な取組を行っています。

県立図書館

鹿児島市城山町7-1
Tel.099-224-9511 HP <http://www.library.pref.kagoshima.jp/>
○開館時間 9時～21時(児童文化室は19時まで) ○休館日 月曜日、毎月25日



原口泉 館長

平成30年のNHK大河ドラマが「西郷どん(せごどん)」に決定しました。県立図書館では、原作者の林真理子さんによる講演会「歴史小説を書く」や貴重資料紹介展「幕末の薩摩」、館長講演会「西郷隆盛と菊次郎」等を開催したところ、いずれも定員を超える応募が殺到し、県民の皆様の関心の高さを感じることでした。平成30年度は、明治維新150周年でもあります。今後も、関連した取組を充実させていきます。乞う、御期待!

【おやこ一冊読書と宝本エピソード展】

「おやこ一冊読書」とは、一冊の本を親と子が一緒に読み味わう、県立図書館が推奨している親子読書の方法です。親子をつなぐ大切な一冊は宝物のようなもの、正に「宝本」です。各家庭の「おやこ一冊読書」への取組を紹介する「宝本エピソード展」には、本年度619件の応募がありました。



【高校生の読書活動推進】

県立図書館には、366席を有する九州随一の学習室があり、多くの高校生がこの学習室を利用しています。高校生の皆さんに更に図書館を利用していただけよう、次のような事業を行っています。

- 「文芸ゼミナール」：プロの作家による文芸指導と作品制作8回講座。H28年度20人受講。
- 「学習サークル」：県立図書館所蔵の古文書を館長の指導で読み解く3回講座。H28年度14人受講。
- 「ボランティア養成講座」：実技を通して図書館業務の技能を身に付ける講座。H28年度79人受講。

奄美図書館

奄美市名瀬古田町1-1
Tel.0997-52-0244 HP <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>
○開館時間 9時～19時 ○休館日 月曜日、毎月25日

昭和33年、前身の県立図書館奄美分館がスタートしました。

現在の奄美図書館は平成21年に開館し、大島地区の皆様を中心に多くの来館者を得て、平成27年7月には100万人を達成しました。

島尾敏雄記念室や郷土コーナーにおける企画展、あまみならでは学舎における講座等、奄美地域の豊かな文化・自然・産業等の情報を発信しています。



石塚一哉 館長

【ネリヤカナヤ創作童話コンクール】

大島地区の小中高校生を対象に、奄美を舞台とした創作童話を募集するコンクールで、H28年度は179人の応募がありました。力作揃いの応募作品は、館内に展示すると共に、作品集にまとめて紹介しています。

【ふるさとの昔話・わらべうたであそぼう】

奄美群島方言の日(2月18日)に合わせて、奄美の方言を使った昔話を聞いたり、わらべ歌等を口ずさみながら鬼ごっこを楽しんだりする催しです。H28年度は幼児から祖父母まで92人の方々が参加しました。

方言の日おぼえなし会



いつも身近に一冊の本を

～1日20分読書運動～

「本はなぜ読まなければいけないのか」という問いに対する私の答えは、まず何よりも「自分をつくる最良の方法だからだ」ということだ。

齋藤孝(明治大学教授)『読書力』から

文章能力や国語力は、勉強や仕事の基本です。この二つを鍛えるには本を読むこと。しかも膨大な量を読むことが一番の近道です。狭い世界しか知らない子どもにとって、読書を通して広い世界を知ることが大切なほうまでありません。

茂木健一郎(東京工業大学教授)『脳を生かす勉強法』から

小学4年生か5年生の頃『クオレ』を読んだ。～中略～ 涙を流しながら何度も読み返し、大きく感化された。～中略～ 30代の頃、『クオレ』を取り出し読み直してみた。さほど感動しなかった。私はこの時「小学生の時に読んでおいてよかった。」とつくづく思った。～中略～ 読むべき本を読むべき時に読むというのが重要で、この時を逸し大人になってからではもう遅い。

藤原正彦(お茶の水女子大学教授)『祖国とは国語』から

さあ読もう！ 1日20分読書



子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。

いつも身近に
1冊の本を！



高校生

自分を見つめる20分

高校生の時期は、自分自身の生き方を見つめるためにも読書が大切です。

いつも身近に1冊の本を置き、1日20分の読書に心掛けましょう。

本を読み、考えよう

スマホやパソコン、テレビから離れて、一人静かに本を開く時間も大切にしましょう。

学校は、友達に紹介したい本のリスト作成やビブリオバトル大会等、生徒が主体的に取り組む読書活動を工夫しましょう。

本の世界を広げよう

公立図書館を利用して、読書の幅や機会を広げましょう。

学校は、各教科等に関連した本を紹介し、読書の幅が広がるよう働きかけましょう。

中学生

ジャンルを広げて20分

中学生の時期は、読書の幅を広げることが大切です。

文学、科学、歴史、郷土など様々なジャンルの本に幅を広げて読みましょう。

声に出して読もう

一人静かに黙読する時間と、大きな声で音読する時間とどちらも大切にしましょう。

学校は、学年に応じた学校図書館の利用の仕方を指導しましょう。

小学生

朝読み夕読み20分

小学生の時期は、言葉や文章の意味を考えながら音読することが大切です。

朝や夕方の音読を続けましょう。

家族と読もう

家庭では、「読書の日」や「読書の時間」をつくり、子どもと一緒に読書に親しみましょう。

幼稚園や保育園では、積極的に読み聞かせに取り組みましょう。

乳幼児

家族と一緒に20分

乳幼児の時期は、読み聞かせなど大人の協力で本に親しむことが大切です。

家族一緒に読書の習慣をつくりましょう。



楽しそうだね

